

太子町子ども・子育て会議（平成 29 年度第 3 回）会議録

1. 開催日時 平成 30 年 2 月 5 日（月） 15 時 00 分～15 時 50 分
2. 開催場所 太子町役場 議会棟 1 階 全員協議会室
3. 審議事項
 - 1 平成 30 年度 特定教育・保育施設の利用定員の設定について
 - 2 太子町子ども・子育て支援事業計画中間年の見直し（素案）について
4. 出席委員 都築祐二委員 松浦知子委員 嘉ノ海令子委員
西谷由加利委員 徳富伸吾委員 武田英樹委員
巖 和美委員 徳山玲菜委員 岡村珠美委員
5. 欠席委員 なし
6. 事務局 藤野和徳社会福祉課長 蛭井のり子児童福祉係長
7. 傍聴者 なし
8. 審議経過及び結果 以下のとおり

【審議経過】

1. 開会

会議録署名委員に巖委員と徳山委員を指名。

2. 議題

- 1 平成 30 年度 特定教育・保育施設の利用定員の設定について
〈事務局より説明〉
〈質疑なし〉
- 2 太子町子ども・子育て支援事業計画中間年の見直し（素案）について
〈事務局より説明〉
〈質疑なし〉

武田会長 本案につきまして皆様にお諮りいたします。太子町子ども・子育て支援事業計

画中間年の見直し（素案）につきまして、原案のとおり承認することでご異議ございませんか。

（異議なし。）

異議なしと認めます。本案につきましては原案どおり承認することで決定いたします。この後、答申を行うにあたり、答申案の作成は会長に一任願いたいと思います。ご異議ございませんか。

（異議なし。）

異議なしと認めます。

3. 答申

武田会長 ただいま御確認いただきました答申案について御意見、ご異議等、ございますでしょうか。

（異議なし。）

ご意見はないようですので、お諮りしたいと思います。太子町子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し（素案）につきまして、お手元に配付しました答申案のとおり、町長に答申することにご異議はございませんでしょうか。

（異議なし。）

異議なしと認めます。

4. 閉会

松浦委員 一年間、うちの法人では、安養保育園を幼保連携型認定こども園として4月から運営してきたわけですが、来年度の説明会なり、保護者に対して説明する際、園に通っている保護者の方から、幼保連携型認定こども園 安養保育園、もう一園が保育所型認定こども園 石海保育園なんですけれども、同じ認定こども園で、保育所型と幼保連携型で違いは何かということをよく問われるんです。というのが、多分、保護者の方にとっては、小学校との接続というところで考えられる部分があると思います。

一応、幼保連携型認定こども園というのは、認定こども園法の中で、教育基本法上の学校として位置づける形になっていることなんですけれども、正直一年終わるんですが、違いというのが私たちも感じられない部分があるんです。

もう少し、学校という位置づけが加わるのであれば、小学校、教育委員会とかとも何か連携を図るようなことがあるのかなと思ったりしていたんですが、こういう子育て会議の場でも、前は教育委員会の方が来られていたようにも思うんですけれども、最近は社会福祉課の方のみで、教育委員会の方も来られてないと思いますし、太子町が幼保連携型の認定こども園をどういうふうと考えていらっしゃるのかなっていうところをお聞かせいただきたいと思うんですが。

事務局 教育が絡んできているということで、本来であれば、教育委員会、太子町全体の子ども・子育ての施策について、社会福祉課が保育の部分を担当しておるんですが、その部分だけで、今、進めているような状況ではありますけれども、本来、町全体の子ども・子育て施策というものは、教育委員会も含めて当然考えていかないといけないと思います。教育・保育、あるいは障害という部分も軽視できない部分と思っております。

教育委員会の管理課長と話をする、子育ての施策をどこが中心になってやっていくのか、今ちょっと曖昧になっている部分があり、少し連携をとって進めていかないといけないというのは課長間で話しています。

今年度はこういう形で終わっていきますけれども、来年度以降、教育も含めて、子ども・子育てを検討していく場に、それぞれが出席できるような形をとっていきたいと思っております。

都築委員 新しい課ができるということはないですか。教育委員会と関わる、社会福祉課と関わる、小学校とも連携をとらなければならないとなってくると、あちこち動きもとらづらひ。

事務局 他の自治体を見ていたら、こども未来課とか、こども政策課を作って、一体となって進めています。太子町の場合、それをどう進めるかというところなんですが、幼稚園を担当している教育委員会が、幼稚園をこども園化するという子ども・子育て支援事業計画の中にも表現はされておるんですが、こども園化するという方向が全然見えていない中で、町の方針をどうするのか曖昧になっているところがあり、教育委員会、社会福祉課がそれぞれで動いているような状況が続いています。

幼稚園をこども園化していくという話になると、一つの所属として動かしやすいのかと思うんですが、現在、計画を立てていないというのが一番の根本かと思っておりますけれども、それぞれが別々に進んでいるという状況の中で、一つの所属にしていくことが難しい状況にはなっています。ただ、社会福祉課の中では、子ども・子育てについて、もう少し、組織として動きやすい形を何か取れないかという議論は、この一年してきていますので、来年度以降、来年のいつになるかわかりませんが、子ども・子育てについての組織的な強化を図りたいというのが、今の課の状況です。

松浦委員 組織の改変となると、調整等、時間がかかると思うんですが、こども園・幼稚園で育てている子ども達の1年というのは本当にその1年しかなく、組織が全く変わらなくても、毎年子ども達が小学校へ上がっていく中で、今のこども達が一番いい状態で小学校へ上がってほしいというのが、職員みんなの願いだと思っております。

組織を作っていくのも大事だと思いますが、今の状態でできること、例えば、この場に教育委員会の方がいらっしゃって、幼稚園では最低限文字が読めるようにやりましょうとか、少しでもそういう話ができて、幼稚園と共通の認識が

あるだけで、子ども達が小学校に上がって負担になることも減ると思うんです。そういう具体的な話し合いができる場を太子町で作っていただきたいと思うんですが。

事務局 教育委員会に出席を求めるのは、特に問題ないと思います。ただ、こういう会議というよりも、連絡会といったものがある方がいいということでしょうか。

来年度に向けて、教育委員会、また、学校、幼稚園と一度お話をさせていただいて、何か情報を共有できる場を作れないかと思いますので、年度初めに、形になるよう調整を進めさせていただきたいと思います。

西谷委員 幼稚園のほうでは、幼保連携型については、全く進んでおりません。なぜかと言いますと、時代に伴い、いろいろなニーズはありますが、たつの市も姫路市も就園率の問題で、休園したり、廃園したり、認定こども園とか違う組織を作るのが次の目標になっていると思います。太子町の場合は、人員的には、龍田は少ないですけども、他市町に比べますと子どももいます。そういった状況で、認定こども園の話は全く進んでおりません。

あえて言うと、3歳児保育の話が出てきては消滅し、施設面の問題かもしれませんが、親のニーズはあるように思います。

事務局 教育委員会から見たときに、そういう意見になってきて、社会福祉課から言うと認定こども園ができてくるんですけども、できればできるほど、ニーズを掘り起こしているなというのが見えてて、預けたいというニーズはどんどん高まってくる。そうなってくると、教育委員会との連携で、ある程度はこども園化というのは、こちらから打診していかないといけない部分もあると思うのですが、今までそれができていなかった部分もあるので、庁舎内の連携をもう少し図らないといけないと反省しています。

嘉ノ海委員 この会議でも、最後の議論だったと思いますが、利用負担の問題で、幼稚園と保育園の1号認定に差がすごくあって、町立幼稚園が認定こども園に移行するにしても、そのへんの整合性をどう取っていくのかというのは大きな問題だと思います。

うちの園が開園した時も、私立だから別に費用をオンして保育料を徴収しているんじゃないかというようなお問い合わせがあったくらい同じ1号認定で明らかに保育料の差がある。そのへんはきちんと考えていく必要があって、そうじゃないと今の町立幼稚園をどんどん認定こども園化したら、その問題がすべて解決する訳ではないですよという議論がされた以降、年度替りもあって、方向性も出ていないという話もあって、議論が途中になったんじゃないかと思いますが、利用する側から見ると大きなことなので、どう考えていくのか、利用者が利用しやすい方法を検討していかないと、すぐにトントンと行くことではないと考えます。

事務局 何を議論していかないといけないかということをもう少し明確にして、こうい

う会議を利用させていただいて、議論する場をまた設けるようにさせていただきたいと思います。

この議事録が真正であることをここに署名する。

平成 30 年 2 月 16 日

署名委員

巖 和美

署名委員

徳山 玲菜